

第8章 子育て支援の会 ひらがなくらぶ

～生まれる企画・広がる活動～

はじめに

「日々・楽しく・我ら・仲良し！」それぞれの言葉の頭文字の「日・楽・我・仲（ひ・ら・が・な）」をとって名付けたサークル、それが静岡県浜松市で活動する「子育て支援の会 ひらがなくらぶ（以下、「ひらがなくらぶ」と表記）」である。このサークルは、名前の由来にあるように、楽しく、仲良くをモットーにさまざまな活動を展開している。

会が発足したのは、今から12年前の1994年である。当時、現代表の鈴木和子さんは、生まれたばかりの我が子連れ、子育てサークルを探していた。しかし、会費が高かったり、サークルとしての一体感がなかったりと、自分に合うサークルがなかなか見つからなかった。そこで鈴木さんは、「だったら自分で立ち上げてみよう」と思い立ち、2～3人のお母さんに声をかけ、日時を決め、公園で親子一緒に遊ぶ活動を始めたのであった。この活動が母親達の口コミで広がり、10～20人ほどの人が公園に集まるようになると、鈴木さんは、公民館を借り、室内での親子遊びを中心とした「ひらがなくらぶ」の活動をスタートさせたのである。その後、「ひらがなくらぶ」の活動は、この親子遊びだけに留まらず、さまざまな活動へと広がっていった。講座の開催や託児等を、次々と企画・実施していったのである。

それでは、こうした活動は、どのように展開されてきたのであろうか。ここではまず、現在の活動の実際からみていくことにしよう。なお、これ以後は、2006年9月25日に行った、「ひらがなくらぶ」代表の鈴木和子さんに対するインタビュー調査の結果を用いていく。また、参考資料として、活動紹介のパンフレットも利用する。

1. 「ひらがなくらぶ」の活動

「ひらがなくらぶ」のひとつひとつの活動には、「～したい！」という気持ちを込めた「～し隊」の名前が付けられている。これらの活動を種類別にまとめると、表1のようになる。

表1 「ひらがなくらぶ」の活動

活動の種類	活動名	活動内容
(1)親子遊びのサークル活動	親子でふれあい隊	乳幼児のママ同志の交流・赤ちゃん体操の親子遊び
	お友達つくり隊	他県からお嫁に来られた方、転勤家族のための交流会の開催
(2)事業の実施・講座の開催	みんなで考えてみ隊	設定したテーマについて、話し合いや講座の企画をする
(3)子育て中の母親のニーズに合わせた活動	楽しいイベントし隊	イベント(親子ファッションショーやビーチボール大会等)の企画
	お誕生会出張隊	自宅や店等に出向き、誕生日パーティーの盛り上げ役をする
	子育て中でも得し隊	割引券等の配布・子育て中でもできる仕事等の情報交換
	時にはゆっくりし隊	看護師・保育士経験者による託児
	お悩み相談引き受け隊	カウンセラーによる相談の受付

(「ひらがなくらぶ」パンフレット1頁より作成)

表1に示したように、活動名を分類すると、大きく三つに分けられる。まずひとつめは、「ひらがなくらぶ」の中心的な活動であり、浜松市内の3ヶ所で毎月1～2回開催している、乳幼

児の親子を対象とした親子遊びの活動である。二つめは、子どもや子育てに関わるさまざまなテーマを設定した講座やイベントの開催である。そして三つめは、子育て中の母親のニーズに合わせて実施する活動である。ここからは、これらの活動の実際について、みていくことにしよう。

(1) 親子遊びのサークル活動? 「親子でふれあい隊」「お友達づくり隊」?

親子遊びのサークルは、「ひらがなくらぶ」の立ち上げ時から、中心的な活動として位置づけられている。この親子遊びの活動は、現在、浜松市内の公民館・保健福祉センター・コープの3ヶ所において、それぞれ月に1～2回の頻度で実施している。なかでも、「お友達づくり隊」の活動は、転勤してきた親子を対象としており、比較的転入者の多い浜松市に特徴的な活動であるといえる(右図)。

3ヶ所の活動には、それぞれ数ヶ月～2歳代の子どもをもつ30組程度の親子が登録している。参加費は、年間300円であり、活動の材料代やおやつ代として使われている。活動時間は10時～12時で、この2時間は、参加者の出入りは自由となっている。ただし、10時半から1時間程度は、参加者が一斉に活動する時間として設定されており、先生役となったスタッフが指示を出しながら、挨拶や歌、手遊びや体操などをした後、毎回異なる企画を行う。この企画の内容は、七夕会やクリスマス会、節分の豆まきなどの季節の行事の他に、市の職員を講師とした応急処置の勉強会等を開くこともある。また、転勤族を対象とした「お友達づくり隊」では、メンバーを講師とした方言講座が企画として入れられている。鈴木さんが「お母さんに喜んでもらう企画を常に考えている」と話しているように、これらの内容は、母親達が関心を持ち、楽しんで取り組めることに主眼がおかれているようである。

(2) 子育てに関わる講座やイベントの開催? 「みんなで考えてみ隊」?

「ひらがなくらぶ」の活動の二つめとして挙げられるのが、「みんなで考えてみ隊」と名づけられた講座やイベントの開催である。これまで開催してきた講座等をまとめると、表2のようになる。

「転勤家族の親子サークル」参加者募集
(他県・市外出身ママも大歓迎)

ようこそ浜松へ!

知らない土地で知らない顔、子育て中は不安もいっぱい...
色々な思いでお引越しされたのではないのでしょうか?
転勤家族、他県出身ママ同士でしか分からない悩みや苦悩など、
ストレスを発散してママ自身の人生楽しんでいきましょう!!

活動内容

- ・ 保育士による親子遊び
- ・ 親子や夫婦、また自分の事など、毎回身近なテーマでおしゃべりやワークショップ(自分書き)
- ・ 得意別に分れて、お互に目標や情報交換
- ・ 各種専門講師による講習会やお役立ち情報を提供

日 程: 毎月第2木曜 10:30 ~ 12:00

会 場: 浜松市南部保健福祉センター (ガス可美店東)

対 象: 0歳～就学前

費 用: 年間310円

問合せ・予約: おやつ、おみやげの購置上、初回のみ費料的となります。
TEL/FAX
E-mail

★ 当サークルは親子遊びや子育て情報などを提供していくグループです。
宗教・政治・営業活動は一切行っておりません。

表2 「ひらがなくらぶ」の活動年表と事業・講座の実施状況

年	講座のテーマ・イベントの内容	事業名
1999	転勤家族の方のための講座	社会福祉・医療事業団基金事業
2000	DV・ジェンダーについての講座	浜松市女性団体支援事業
2002	小・中学生の妊婦体験	こどもゆめ基金財団事業
2004	講座「子育てと食育」	
2005	講座「笑い子育て」	
2006	講座「NOW!子育て」	
	父親対象の連続講座	男女共同参画推進団体支援事業

(「ひらがなくらぶ」パンフレット2頁より作成)

表2に示したように、「ひらがなくらぶ」では、転勤家族やDV(家庭内暴力)、子育ての問題等、子育て中の親たちの身近な事柄をテーマに、講座を開催している。

例えば、1999年の「転勤家族の方のための講座」では、全12回の連続開催とし、子どもがいても楽しめるマップ作りを行っている。他にも、「子育てと食育」や「笑いとお子育」など、子育てに関するさまざまなテーマを設定し、講座を開催している。また、時には、小・中学生対象とした乳幼児との交流や妊婦体験を企画することもある。

ここでは、活動の様子をもう少し詳しく知るために、2006年に開催した、父親のための子育て講座を例に企画の実際について紹介しよう。講座は全3回の連続講座であり、父親が参加しやすいようにという配慮から、開催日はすべて土曜日に設定されている。各回のテーマと講師については、第1回は、図書館の勤続経験のある人を講師に招いた「絵本の読み聞かせ」、第2回は保育士を講師とした「親子遊び」、最後の第3回は、料理教室で先生をしていた経験のある人を講師とした「お弁当作り」となっている。なお、男女共同参画推進団体支援事業の助成を受けているため、参加費は無料である。また、父親たちが車で来ることを想定し、駐車場の広い施設を会場としている。さらに、講座のお知らせが、子育て中の父親達の目に付きやすいよう、紳士服販売店やゴルフ練習場にチラシ(下図)を置くなど、広報の仕方にも工夫している。このように、「ひらがなくらぶ」では、一つの講座を開催する際にも、参加者の関心や状況など、さまざまな点に気を配っているのである。

平成18年度 男女共同参画推進団体支援事業

ちよいとケ父さんを目指しませんか!?

世のお父さんへ
 仕事...仕事...もうおれ今仕事は元張り時期よね
 趣味・プライベートも最近はずい分妥協してるよ
 うんうん. わかるわかる☆ But... ママもおんなじよ! 子供のために
 24時間フル活動 @ あ... 私の人生→こんなんじゃないのか?
 夫婦間に距離ができたみたい...と昼中観ながら悩む日々
 どうせ皆 個々に悩んでいても始まらない!! 他家の旦那様必読話し、聞いてみたいよ
 あなたの家庭の武勇伝も、聞かせてよ
 子供との関わり方も料理でも、ときないヨリ出来た方が...下手ヨリ上手な方が...
 ママにもお会いモテますよ!!



申し込み	月	日
お名前	年れい	
パパ	まくらい	
ママ	おくらい	
子	お	4月
子	お	4月
子	お	4月
お住まい	おごんわ	

参加は...

お1弾 → 出・欠
 お2弾 → 出・欠
 お3弾 → 出・欠

費用は...

希望有 希望しない

お3弾の持ち物
 白い紙、ボールペン、マイコンパス、マイはし

お父さんのための
絵本の読み聞かせ講座

体を動かした親子遊び

お父さんにも簡単にできる
お弁当作り

子育ての会 ひらがなくらぶ
TEL/FAX
04-76-10000

お父さん1号 10/14(土) 10:30~11:45 可楽総合センター(和室)

お父さん2号 10/21(土) 10:30~11:45 可楽総合センター(和室)

お父さん3号 10/28(土) 10:00~13:00 コーポラティブ店(2F コーポラティブ店)

お父さん3号もって家族20組(休養組)

費用は無料です

3.11.10000

(3) 子育て中の母親のニーズに合わせた活動? 「お悩み相談引き受け隊」等々?

「ひらがなくらぶ」が行う活動の三つめとしてあげられるのが、子育て中の母親たちの悩みを解消したり、気分転換を図ったりする活動である。例えば、「お悩み相談引き受け隊」では、子育てに関する悩みを抱える母親の相談に、カウンセラーの資格をもつスタッフがのっている。また、母親達の希望に応じて、自宅や店等に出向いて、誕生日パーティーの盛り上げ役をする

「お誕生会出張隊」や、美容院に行く際に託児をする「時にはゆっくりし隊」といった活動も行っている。これらの活動を通じて、「ひらがなくらぶ」は、母親達が子育てを楽しんだり、リラックスしたりする機会を提供しているのである。

2. 「～したい！」気持ちを出発点に

このように、「ひらがなくらぶ」は、さまざまな活動を次々と行っている。これだけの活動を展開できるのは、活動のアイデアとなる「～したい！」という気持ちや、その気持ちを「企画」として形にすることを何よりも重視しているためである。実際、「ひらがなくらぶ」のパンフレットの表紙には、「スタッフが一丸となって企画にハートを懸けています」という言葉が記されている。ここにあるとおり、スタッフは「企画」の提案に「ハートを懸け」ながら、活動を展開しているのである。

こうした「～したい！」というアイデアを大切にする姿勢や「企画」として形にする力は、活動の随所に表れている。例えば、先に挙げた講座やイベントの「企画」は、行政や事業を行う団体からの働きかけではなく、スタッフから出された「こういうのやってみたいね」というアイデアをから生まれたものばかりである。また、かつて「ひらがなくらぶ」が提案した「空き教室の利用」も、「～したい！」という気持ちを形にしたものであった。1998年、親子遊びのサークル活動を展開する場所として、中学校の空き教室に目を付けた代表の鈴木さんは、中学校を早速訪問し、空き教室を使わせてもらえるよう、校長先生に依頼したのである。その後、鈴木さんは、教育長にも直接交渉して、空き教室を借りる手はずをととのえたのであった。この空き教室での親子遊びの活動は、その後4年間続いたが、その間に市が空き教室利用の事業化を図っている。「ひらがなくらぶ」は、行政に先駆けて、中学校の空き教室の利用を提案し、実施したのである。これらのエピソードは、「ひらがなくらぶ」の「企画」力をよく表しているといえよう。

それでは、こうした「企画」を大切にする方針は、なぜ生まれたのであろうか。その理由のひとつとして、「企画」を考えることが好きで、楽しみながら活動を「企画」することのできる代表やスタッフが揃ったことが挙げられる。実際、鈴木さんは、インタビューのなかで、「企画を考えるのが好きなんです。企画が大好きで、本当に。本当に好きなんです。なんか計画したり、企画したり、面白いことを考えたりするのが。」と話している。この発言からは、代表自身が、何か新しいものを「企画したり、面白いことを考えたりするのが」好きであり、「企画」を生み出すことそのものを楽しんでいる様子が伝わってくる。また、こうした「企画」を楽しむ姿勢は、鈴木さんだけでなく、スタッフにも共有されている。かつて、鈴木さんが「ひらがなくらぶ」をやめようかと悩んでいた時期があったが、その当時、スタッフから出された「面白そう！」な「企画」を実現するなかで、「やめようか」「やめたい」という考えがいつの間にか消え、活動が継続できたことがあったそうである。鈴木さんとスタッフが共に持っている「企画」を楽しむ気持ちが、「ひらがなくらぶ」の活動を支えたといえよう。

このように、スタッフひとりひとりのアイデアを、「企画」として形にしていくことで、「ひらがなくらぶ」の多様な活動が生まれているのである¹⁾。

3. 「企画」を支える運営の体制

それでは、こうしたさまざまな「企画」は、どのような運営体制によって生み出されている

のであろうか。

現在、「ひらがなくらぶ」のスタッフは11名おり、メンバーは、元学校の先生やエレクトーンの先生、英会話の先生や元保育士等となっている。運営の方法としては、基本的に、親子遊びが行われる公民館・保健福祉センター・コープの3つの会場ごとに、それぞれ3～4人ずつの担当スタッフがあり、各会場の活動の企画・運営を行っている。もちろん、大規模な企画の際には、他の場所のスタッフが手伝いに来ることもあるが、各会場の活動内容が異なるため、各会場を超えた打ち合わせや、11人全員が顔を合わせる運営会議などは設けられていない。

それでは、こうした会場ごとの活動の違いを活かしながら、どのように「ひらがなくらぶ」の活動としてまとめ、統括しているのでしょうか。このまとめ役を一手に引き受けているのが、代表の鈴木さんである。代表は、他のスタッフとは異なり、3ヶ所すべての運営に参加し、全体的な活動を把握している。代表が各会場をつなぐ連絡係となり、全体の活動を俯瞰する役割を担うことによって、「ひらがなくらぶ」としてのまとまりが確保されているのである。

イベントを開催する際にも、代表の役割は非常に重要である。「ひらがなくらぶ」による講座やイベントの「企画」は、スタッフから出された「こういうのやってみたいね」という提案をもとに生まれている。このとき、代表の存在が「企画」の実現の鍵を握っているのである。例えば、公民館担当のスタッフの一人から「～したい!」といったアイデアが出された場合、「ひらがなくらぶ」では、まず、その場にいる公民館担当のスタッフによって、アイデアを「企画」として形にするための話し合いがもたれる。そして、この話し合いを通じて生まれた「企画」を、鈴木さんが「保健福祉センター」や「コープ」のスタッフに提案し、「企画」の担い手となるスタッフを募るのである。つまり、代表は、「企画」の全体像を把握すると共に、それを担うスタッフを各会場から募り、「企画」の実施へとつなげているのである。こうした運営方法は、全体を見渡す広い視野や、活動やスタッフをまとめる力量を備えた鈴木さんが代表を担っているからこそ、実現するものであるといえよう。

おわりに

このように「ひらがなくらぶ」は、代表を中心とした運営方法により、スタッフの「～したい!」というアイデアを次々と「企画」にし、さまざまな活動を展開している。こうした活動を行う上で課題となっているのが、参加者の減少と、それに伴う方向性を見直しである。「ひらがなくらぶ」が立ち上がった1994年以降、浜松市では、行政による子育て支援事業の充実が図られたことにより、子育て世代を対象とした無料で行うサロンやイベントが増加している。また同時に、早期教育に対する期待から、親子遊びのサークルよりも、子どもを塾や習い事に通わせる親も増えているようである。そのため、親子遊びをするサークルへの参加者は減少傾向にある。実際、鈴木さんは、現代の母親の求める支援について、次のように語っている。

結局、今、お母さんが求めているのって、塾のような感じ。英会話やったりとかスイミングやったりとか。何かを習い事をさせようという。高くても。そういう傾向にあるのかな。それが無料、まったく無料か。

ここで話されているように、支援の場が充実して母親たちの選択肢が増えると同時に、習い事への関心が高まるなかで、塾的な要素もなく、無料でもない「ひらがなくらぶ」のような親子遊びのサークルは、その存在意義が問われているのである。実際、浜松市でも、このような環境の変化のなかで、子育てサークル自体が減少しているようである。

こうした状況を受け、「ひらがなくらぶ」では、今後、これまで活動の中心としてきた親子遊びのサークル活動よりも、講座やイベントを重視する方向で活動を展開することを検討している。周囲の環境の変化に合わせて、「ひらがなくらぶ」の活動も変化させる必要があると認識しているのである。こうした新たな方向への転換も、「ひらがなくらぶ」のスタッフから生まれるアイデアと「企画」力があれば、さまざまな可能性をもちうるであろう。どんな楽しい「企画」が飛び出すのか、今後の展開が楽しみな団体である。

(丹治恭子)

<注>

1) こうしたスタッフの提案から生まれたのが、特定非営利法人(NPO法人)格を2000年に取得したことである。しかし、法人格を取得したことに伴う現実的な事務作業は膨大で、スタッフにかかる負担は非常に大きかった。そこで、こうした事務作業に時間をとられるよりは、手遊びを考えるなど、子どものためにもっと時間を費やそうという意見がスタッフから出され、2004年には、法人を解散している。法人の設立・解散のいずれの場合にも、スタッフからの提案が活かされ、形にされているのである。